

invested in insights.

eastspring
investments

A Prudential plc (UK) company



2026 Mid-Year Outlook

2026年の市場展望（年央版）

- 年初来のアジア市場の優位性は2026年後半も続く

※本レポートは2026年6月29日時点の情報に基づいて作成されています。



Vis Nayar

CIO（最高投資責任者）

イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）



Ray Farris

チーフエコノミスト

イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）



Viola Wang

エコノミスト

イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）

イラン情勢の終結に向けた動きとAI関連の継続的な設備投資が2026年後半のアジア市場を支える原動力に

2026年後半もアジア市場の相対的な優位性が続く可能性が高いとみています。イラン情勢の終結に向けた動きは、アジア地域の経済見通しにとって明確な追い風になると考えられます。しかしながら、アジア地域全体としては米国株式を上回るパフォーマンスを示す一方で、そのリターンは一様ではありません。投資家にとっては、アジア各国・地域あるいは各市場の特性などを丁寧に分析し、選別的に投資を行うことが引き続き求められる状況にあると言えるでしょう。

その背景の一つとして、エネルギー価格上昇によるインフレ圧力が挙げられます。エネルギーショックは米連邦準備制度理事会（FRB）のタカ派姿勢を後押しし、米ドル高を招いています。加えて、世界的なインフレ圧力の高まりにより、一部のアジア各国・地域の中央銀行は利上げを開始しています。特にインドネシアやフィリピンでその動きが見られるほか、韓国やインドでも年内の利上げが検討される可能性があります。

もう一つの重要な変化は、AI関連の設備投資が急拡大している点です。この動きは国や産業ごとに異なる成長機会を生み出しており、北アジアがその主な恩恵を受けている一方で、詳細な分析を行うことでインドやシンガポール、タイにおいても魅力的なIT関連の投資機会を見出すことができると考えています。対照的に、個人消費の伸びは主要なIT輸出国を含む多くの国で依然として低調な状況が続いています。

今後の展望としては、エネルギー価格の低下によってアジア各国・地域の貿易収支が改善し、通貨の安定が期待されます。特に東南アジア諸国やインドは、その恩恵を受けやすい市場と考えられます。また、我々のベースシナリオとは異なりますが、仮にFRBが現在のタカ派姿勢から転換する場合には、その効果はさらに拡大する可能性があります。加えて、エネルギー補助金の削減によって生じる財政余力が投資へ振り向けられることで、東南アジア諸国やインドにおける成長がIT分野以外にも広がることが期待されます。

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。

最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。

※ご留意いただきたい事項を最終ページに記載しております。

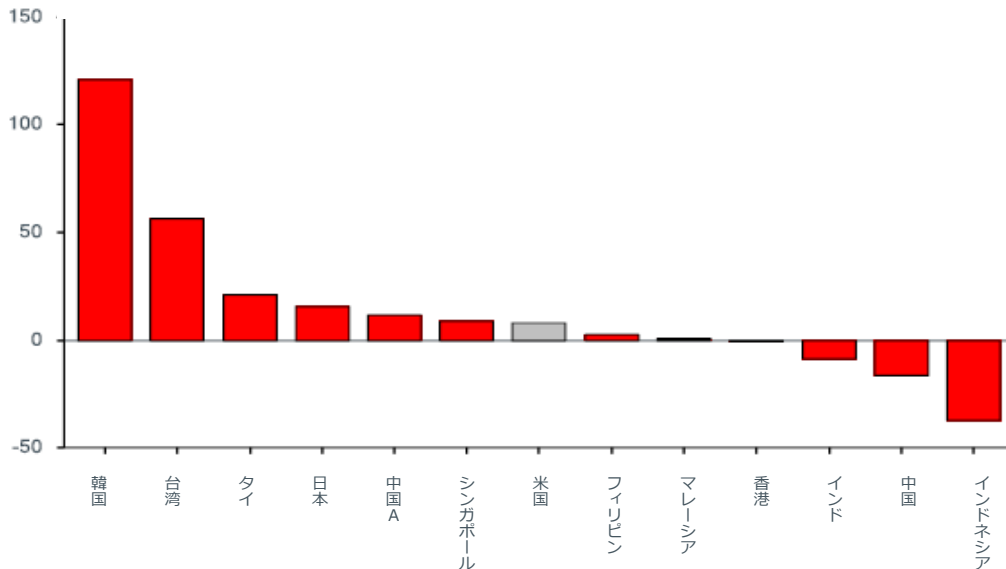
イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号／加入協会 一般社団法人資産運用業協会

260714(01)

図表1：アジア各国・地域の株価リターンは二極化

(%) MSCI各国指数のトータル・リターン（2026年2月27日～2026年6月26日、米ドルベース）



出所：LSEG Datastreamのデータに基づき、イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）作成。米国：S&P500種指数、それ以外はMSCI各国指数。

アジア市場においては、アクティブ運用はもはや選択肢の一つではなく、投資成果を追求するうえで不可欠なアプローチ

このように二極化が進み、かつ絶えず変化する市場環境のなかで、私たちは長期的かつ構造的に成長が期待される企業を厳選する一方、市場下落局面におけるリスク管理にも注力しています。具体的には、分散投資を徹底することで、投資家の資金が集中しているテクノロジー関連やエネルギー関連の銘柄への過度な偏りを回避し、ポートフォリオの安定性向上に努めています。こうしたアプローチにより、市場環境の変化に伴うボラティリティを適切に管理しながら、長期にわたって着実にリターンを積み上げることのできる投資機会の創出を目指しています。

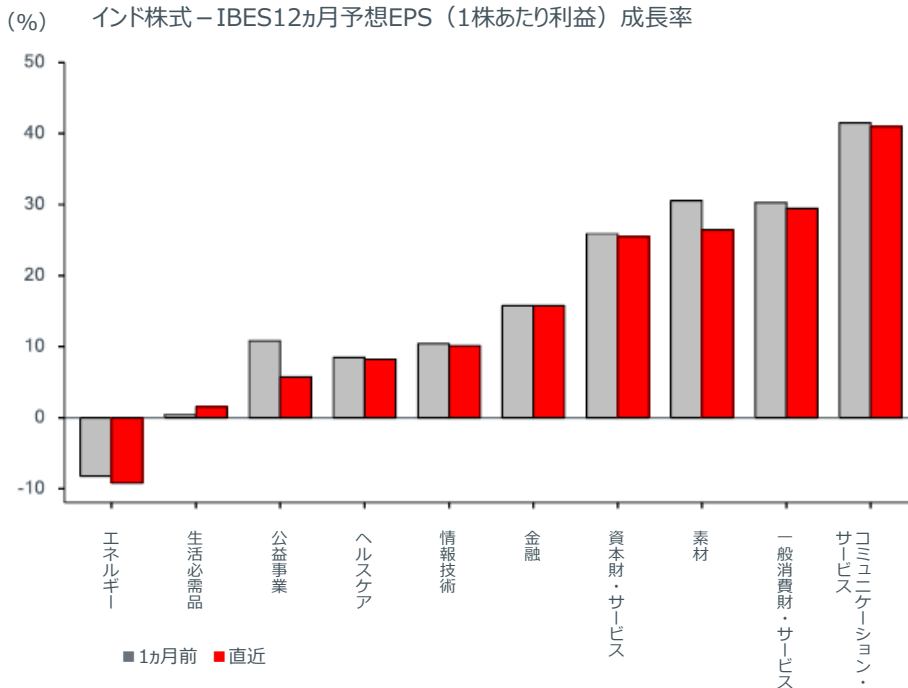
中国：中国はエネルギー資源や各種コモディティへの安定的なアクセスを有していることに加え、地政学的緊張の高まりを背景として電気自動車（EV）や代替エネルギーへの世界的な需要の恩恵を受け、足元の市場環境において相対的に有利な立場にあると考えられます。もっとも、私たちが見込む4.8%の経済成長の恩恵を実際の投資リターンとして取り込むためには、市場全体に投資だけでは不十分であり、注意深く企業を選別する必要があると考えています。

中国の「新三種（New Three）」と呼ばれる戦略産業、すなわち電気自動車（EV）、リチウムイオン電池、太陽光発電関連製品の輸出は引き続き力強い伸びを示しています。一方で、供給の拡大や競争激化などによる企業の収益性の低さが課題となっています。また、個人消費の伸びの鈍化や業界内の競争激化などにより、H株企業¹の業績にも影響を及ぼしています。こうした環境下において、私たちは中国市場の投資機会をより幅広く捉えることが重要であると考えています。特に、中国の技術革新を担うテクノロジー関連企業や、中国政府が推進する戦略的産業投資の恩恵を受ける企業が多く存在するA株市場²に注目しています。

さらに、上半期に抑制されていた政府支出が下半期にかけて拡大へ転じる場合、その政策効果が企業業績や投資活動を下支えする可能性があり、新たな投資テーマとして市場の関心を集めることも期待されます。

1. 香港市場に上場している中国企業。
2. 中国本土（上海・深圳）市場。

図表2： インド株式はセクターによって利益見通しが大きく異なる



出所：LSEG Datastreamのデータに基づき、イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）作成。2026年5月29日時点（1か月前）および2026年6月29日時点（直近）。

インド：インドは指数ベースではアジア地域の中でも相対的に低調なパフォーマンスとなっていますが、アクティブな銘柄選択によって、一部のセクターでは依然として高い利益成長が期待できるうえ、足元ではバリュエーションもより魅力的な水準に低下していると考えられます。

インド株式は米国株式との相関が非常に低いことから、テクノロジーセクターへの集中度が高まっている米国市場に対する有効な分散投資先として注目されます。

これまでのインド株式の低調なパフォーマンスの主な要因は、エネルギー価格の上昇がインドルピーや企業収益の見通しを悪化させたことによるものでした。しかしながら、こうした逆風は今後徐々に緩和あるいは反転する可能性が高いと見ています。足元で進んでいる原油価格の下落は、インドの貿易収支の改善につながるとともに、企業のコスト負担を軽減する要因になると考えられます。

加えて、インド準備銀行（RBI）が導入した非居住インド人（NRI）からの資金流入促進策も、ルピーの安定に寄与する可能性があります。この制度は海外からの資金流入を通じて通貨を下支えし、より急速な利上げを回避する効果も期待されています。私たちは、この

取り組みにより少なくとも350億米ドル、場合によっては500億米ドル規模の資金流入が実現する可能性があるとみています。

日本：日本は力強い景気循環の回復局面にあると同時に、企業の構造改革による収益性向上の恩恵も享受しており、複数の成長要因が重なり合う魅力的な投資環境にあると考えられます。輸出は堅調に推移しているほか、国内企業の設備投資も市場予想を上回るペースで拡大しています。さらに、実質賃金の伸びが2%程度まで加速していることは、個人消費の回復を後押しする要因として期待されます。こうした環境を背景に、幅広い業種で企業業績の見通しが上方修正される動きが見られます。

投資機会という観点では、設備投資の拡大や経済活動回復の恩恵を受けやすい資本財セクター関連企業に加え、よりディフェンシブな内需関連企業に注目しています。また、ヘルスケアや医療機器関連、消費者サービス分野においても、一部の企業では魅力的な投資機会が広がりつつあると見ています。さらに注目すべき点として、MSCIジャパン・バリュー指数は米国株式との相関が低く、ポートフォリオの分散効果や安定性を高めることが期待できると考えられます。

invested in insights.

債券：私たちは引き続きアジア社債市場について前向きな見方を維持しています。総合利回りは依然として魅力的な水準にあると考えており、世界の株式市場において投資資金が限られたテーマへ集中する傾向が続くなか、債券はポートフォリオの分散効果を高める有効な資産クラスであると考えられます。

私たちは、市場環境の変化に左右されにくい安定的なキャリー収益の確保を重視しながらポートフォリオを運営しています。また、エネルギー価格上昇がインフレや金利に及ぼす影響がピークアウトしつつあることを示す兆候が確認されれば、デュレーションの長期化も検討していく方針です。また、私たちは、シンガポールドルや豪ドルなど国際収支の健全性が高い経済圏を選好しています。

アジア・テクノロジー：AIはアジアの長期的な成長を牽引する新たな成長ドライバーになりつつあります。その成長を支えているのは、データセンター投資の拡大に加え、アジアが世界のテクノロジー・ハードウェア供給網において重要な地位を占めていることです。

AIは一般的に、米国企業が主導するソフトウェアや半導体革命として捉えられることが少なくありません。しかし、その基盤となる半導体チップやハードウェア、インフラなどの供給においては、アジアが中心的な役割を果たしています。言い換えれば、AI革命を支える「実体的なインフラ」の構築において、アジアは極めて重要な存在であると考えられます。

一方で、世界の主要なテクノロジー関連指数においては米国企業が70%超を占める中、投資家はグローバルのテクノロジー銘柄への投資を通じて十分な分散を図っていると考えがちです。しかしアジア市場に存在する魅力的な投資機会や、次世代の成長を牽引する新興イノベーターを見過ごしている可能性があります。アジアのテクノロジー銘柄への戦略的な投資配分は、こうした見逃されがちな成長機会へのアクセスを可能にすると考えられます。

台湾および韓国は、AIがエージェント型AIからフィジカルAIへ進化するなかで、アジア地域における主要な成長市場として注目されています。長年にわたり製造能力への投資が十分に行われてこなかったことを背景に、AIインフラに対する需要は引き続き供給を上回る状況が続いています。

特に、電子機器メーカーや厳選されたサプライチェーン関連企業に注目しています。これらの企業は、価格決定力が強く、平均販売価格の上昇により、さらに魅力的な利益成長が期待できることから、投資妙味があると考えられます。

総じてみれば、AIインフラ投資の拡大は一時的な現象ではなく、持続性のある構造的な成長テーマであると考えられます。しかし、その成長の恩恵を十分に享受するためには、指数全体の動きを捉えるだけでなく、AI投資を実際の収益成長へと結び付けることのできる企業を見極めることが重要と考えています。投資機会は、電力システムや高速通信インフラ、精密部品、さらには衛星関連分野に至るまで、AIを支える幅広い物理的なサプライチェーン全体に広がっています。

一方で、アジア市場は極めて多様性に富んでおり、足元のエネルギーショックは新たな投資機会を生み出すと同時に、市場間やセクター間の差を拡大しています。

こうした環境下で超過収益を追求するためには、企業の収益力や競争優位性、事業環境の変化を丹念に分析するファンダメンタルズ調査に加え、徹底した銘柄選択が不可欠です。広範な指数へ連動するパッシブ投資では、市場参加者の資金が集中するテクノロジー関連銘柄への過度なエクスポージャーを抱える、あるいはエネルギー輸入国が直面する逆風の影響を受ける可能性があります。私たちは、アジア市場においてアクティブ運用の重要性がこれまでにないほど高まっていると考えています。

MSCI 指数はMSCI Inc. が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

<当資料に関してご留意いただきたい事項>

○当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）が作成した資料をもとに、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。○当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当資料では、個別企業や業種・テーマに言及することがありますが、当該企業の株式／債券や業種・テーマについて組入の保証や売買の推奨をするものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。○抄訳には正確性を期していますが、必ずしもその完全性を担保するものではありません。また、必ずしも原資料の趣旨をすべて反映した内容になっていない場合があります。